

ニッキン投信情報の連載『黄金時代到来！？なるほどインド講座』の第5弾が公開されました！

ニッキン投信情報（10月14日号）にて、弊社取締役 営業マーケティング本部長の面谷 祥友による連載『黄金時代到来！？なるほどインド講座』の第5弾が公開されました。

本連載は計12回（毎月1回）を予定しています。

第5回目となる本紙では“ポートフォリオ提案におけるインド株式組み入れの効果”について寄稿させて頂きました。

ニッキン投信情報 2024年10月14日発行 第1335号 (1)

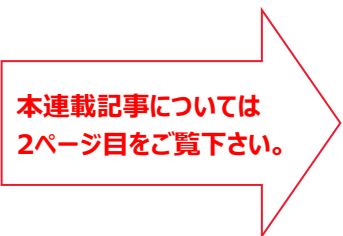
ニッキン投信情報

発行所 日本金融通信社 © 2024 〒102-8677 東京都千代田区九段南4-3-15 電話 03(3261)9971
週刊（毎月曜日発行） 購読料（別冊込み）1ヵ年165,000円(税込)

CONTENTS	
09	全国銀行のNISAキャンペーン実施状況（2024年10月2日調査） NISA関連キャンペーンを45機関が実施 2024年10月2日基準で全国銀行（地域銀系証券子会社を含む）のNISA関連キャンペーン実施状況を調査した。実施しているのは都銀・信託銀・その他銀（ゆうちょ銀を含む）が6行、地銀は26行、第二地銀9行、地域銀系証券子会社は4社の計45機関で、7月4日実施の前回調査から21機関減少した。実施率は都銀・信託銀・その他銀（ゆうちょ銀を含む）が46.2%で最も高く、地銀が45.6%で続いた。
03	「成長投資株」と「つみたて投資株」の統合一本化の検討を
04	FID原則に盛り込まれるプロダクトバランス（下）～FID原則改訂の参議院・政府MIFID IIからの示唆～ 大和証券 金融調査部 研究員 森 敬介
07	投資家意識調査に聞く 京都信用金庫 田辺支店 河戸明美さん 子育て経験生かした接客 ファンド男島 山口 隼 NISA口座開設を軸に
15	富国ファンドの10年閉鎖率（2024年8月末） 富国半1位は野村「野村世界業種別投資（世界半導体株）」で794.6%
53	富国半業種別投資ファンド ニッセイ「ニッセイ・インデックス・SOX（米国半導体株）」など8本
55	販売会社情報 八十二銀、西日本シティ銀、横濱信金、西尾信金、水島信金、とらぎんT証券、中銀証券
57	運用会社情報 投資協・顧問業協、フランクリン、大和
58	月間マーケットウォッチ 選挙に揺れる10月相場 大和証券 投資情報部 ストラテジー課 シニアストラテジスト 細井秀司
59	黄金時代到来！？なるほどインド講座（第5回） ポートフォリオ提案におけるインド株式組み入れの効果 イーストスプリング・インベストメンツ 取締役 営業マーケティング本部長 面谷 祥友
60	英紙で考える金銀（第9回） Yieldとは Patrick E. Connolly / 大久保良夫
61	投資販売現場革命！（第2回） 販売担当者が担うべきプロセス責任とは？ りそなアセットマネジメント 未来資産形成ラボ所長 南川 久
62	シン・遺教知新のつみたて投資（第5回） 円安？、そりや、てえへんだあ！ 日本つみたて投資協会 代表理事 太田 新

「ニッキン投信情報別冊 金融機関別 厳選ファンドの騰落率一覧」は、下記URLまたはQRコードからデータを取得できます。 <https://www.nikkinc.co.jp/toushin/touraku.html>

NIKKIN INVESTMENT TRUST NEWS



<当資料に関してご留意いただきたい事項>

○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがあります。○将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

連載



政治的な不透明感を抱える日米とは対照的に、モディ首相が3期目をスタートしたインドは、政治の安定感を背景に、インド国内外の投資家からの資金フローに支えられ株式市場が堅調に推移しています。日本国内でもインド株式ファンドへの注目が高まり、2024年のファンドの 카테고리別資金流入動向では、インデックスファンドやETFを除くアクティブファンドにおいて、インド株式ファンドが資金流入の上位となっています。新NISA制度のスタートを追い風に、長期投資や資産形成のための投資対象として支持を得ています。

ソブリン・ウェルス・ファンドのインド投資

国家の金融資産を運用するソブリン・ウェルス・ファンド（政府系ファンド。以下SWF）の動向は、その運用規模の大きさから世界中で注目されています。私が23年12月にインド現地で企業訪問した際に印象に残っている話題として、有名なSWFであるカタール投資庁によるインド投資をご紹介します。インド最大のコングロマリット企業であるリライアンス・インダストリーズは、もともと石油化学を中心とした大手財閥ですが、近年では小売り事業や通信事業も拡大し、特に通信事業ではインド国内の携帯電話加入者数でシェアトップを占めています。23年8月にカタール投資庁が、そのリライアンスの小売り事業に対して約828億インド・ルピーの出資を行い、0.99%の権利を取得しました。出資額から算定される企業価値が、リライアンス・インダストリーズの一部門である小売り事業だけで8.28兆インド・ルピー（当時の為替レートで約14.6兆円）と評価された点にも驚きましたが、同時にSWFによるインド企業への投資としても強く印象に残っています。

一般的にSWFは、国富の拡大を目的に長期投資の観点から対外資産への分散ポートフォリオ投資を行っています。カタール投資庁も、長期、分散ポートフォリオ投資の観点からインド投資を行っているのだと思います。

インド株式でリスク・リターン改善

インドの名目GDPは、個人消費と投資（総固定資本形成）が約90%を占める内需中心の経済構造のため、世界景気の影響を受けにくい特徴があります。そのため、米国株式などとは異なる値動きをし、相関性が低い傾向があります。先進国株式や米国株式を中心に投資を行っている方は、ポートフォリオにインド株式を追加することでリスク分散効果が期待できます。過去10年間のパフォーマンスを基に、日本株式と米国株式それぞれ50%のポートフォリオに対して、インド株式を20%組み入れる試算を行ったところ、リスク・リターンの改善が見られました（図表参照）。

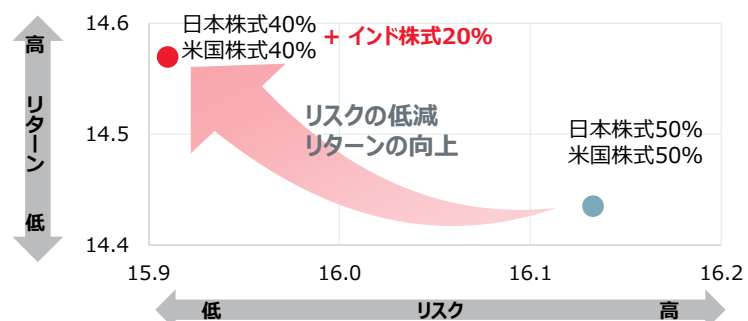
長期投資、時間分散、資産分散の重要性

インド株式投資においても「長期投資、時間分散、資産分散」は基本かつ重要です。インド株式の見通しが良く、パフォーマンスが良いからといって、資産の大半をインド株式に集中投資するようなことは避けるべきです。それでは米国株式やテクノロジー関連株式に一極集中で投資しているのと変わりありません。複数の資産との組み合わせでポートフォリオのパーツとして長期投資の観点から保有することが重要です。

（執筆：イーストスプリング・インベストメンツ

取締役 営業マーケティング本部長 面谷祥友）

図表 インド株式の追加でポートフォリオのリスク・リターンが改善



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。※期間：2014年8月末～2024年8月末、月次。米国株式：S&P500種指数、日本株式：日経平均株価指数、インド株式：Nifty50指数、トータル・リターン（ネット）。ブルームバーグの為替レートを使用。※月次リバランスを前提に試算。リターンとリスクは各指数（円換算）の月次騰落率および標準偏差を年率換算、単位は%。※上記は一定の前提の下で計算したシミュレーションであり、実際のパフォーマンスとは異なります。取引にかかる手数料等のコストは考慮されておりません。また、指数に直接投資することはできません。※各指数の比率は一例として試算したものであり、推奨する比率ではありません。※上記は参考データをご提供する目的で作成したものです。上記は過去のデータをもとにした試算であり、将来の運用成果を保証するものではありません。本稿は執筆時点での情報に基づく筆者の個人的な見解であり、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の公式見解ではありません。